

授業科目名 (英文表記)	「ことば」の哲学 ～日本語と日本人を考える～ (An Introduction to Japanese Philosophy : Language)		
単位数	2 (学部生のみ)	授業形態	講義、オンライン(TeamsまたはZoom)
担当教員	天野 雅郎		
開講	南紀熊野サテライト	区分	学部開放科目
実施日・時間	① 10月10日(土) 13:00～17:00	③ 11月28日(土) 13:00～17:00	⑤ 1月9日(土) 13:00～17:00
	② 11月14日(土) 13:00～17:00	④ 12月19日(土) 13:00～17:00	⑥ 2月13日(土) 13:00～17:00

【授業の概要・ねらい】

哲学は難しい、という印象を多くの人が持っています。

たしかに、哲学は難しく、ひよっとすると全ての学問の中で、もっとも難しい学問であるのかも知れません。

が、それと同時に哲学は、いたって易しい、あらゆる人に開かれた学問(と言うよりも、学問以前の学問)であることも事実です。

この授業では、そのような哲学の難しさと易しさを、あたかも「茶の湯」(=茶道)と「日常茶飯」の両面から、お茶を飲み、ご飯を食べるかのように、皆さんに伝えることが叶えば幸いです。

テーマには、日本語を選んでみました。

なぜなら、そもそも哲学が自分の頭を使って、自分の生活や人生を言語化するものである以上、日本人の哲学は必然的に、日本語を考えることに辿り着かざるをえないからです。

この授業では、そのような日本人の哲学にとって、必要不可欠な日本語を取り上げ、そのことを通じて、これまで日本人が何を考え、これから何を考えようとしているのか、受講生の皆さんと一緒に議論することが出来れば、と願っています。

【授業計画】

この授業では、日本を代表する日本語学者、大野晋の『日本語の年輪』と『日本語の水脈』をテキストに選び、まず日本語の成り立ちを理解します。

そして、そこから皆さんが、ごく普通に使っている、さまざまな日本語の使い方を振り返り、あらためて日本語の幅の広さと奥の深さを辿り直したい、と考えています。

あわせて、このテキストに登場する日本語の中から、毎回、幾つかの語を抜き出し、その歴史や文化や、それらが今の私たちにも及ぼしている、とても広範な影響について、お話を致します。

第1回 講読『日本語の年輪』(其の壱)

第2回 同上(其の弐)

第3回 同上(其の参)

第4回 講読『日本語の水脈』(其の壱)

第5回 同上(其の弐)

第6回 同上(其の参)

【到達目標】

日本語の成り立ちを知り、それが日本人の思考法にとって、どのような影響を今に及ぼしているのか、自分自身の言葉遣いを通じて考えることが出来るようになるのが目標です。

【教科書】

大野晋『日本語の年輪』『日本語の水脈』(新潮文庫)

【参考書】

適宜、紹介します。

【授業時間外学修】

毎回、テキストの所定の箇所を読んだ上で、授業に参加することが必要です。

【履修上の注意・メッセージ】

多くの皆さんの、ご参加を期待します。

※この授業は、オンラインによる遠隔授業で実施します。オンラインによる授業を行う場合に必要なパソコン、ネット環境は、各自で準備してください。